

2024年度の活動のまとめ

1. 広報・啓発活動

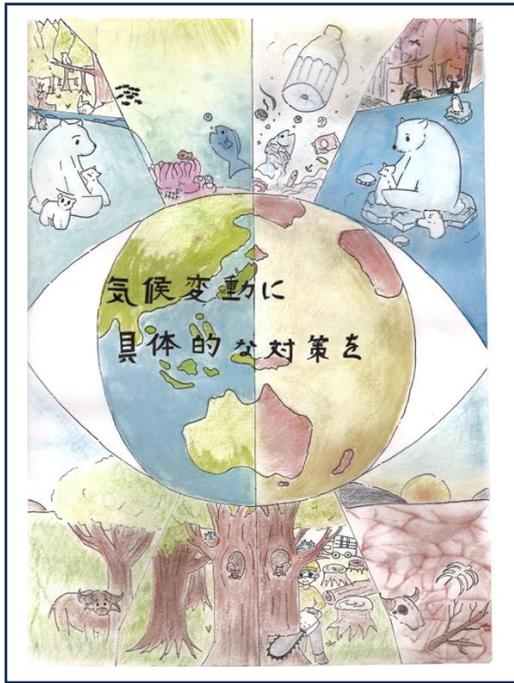
(1) 2022年度に開催されました福島民報社主催の「ふくしまSDGs博」を継承した事業として、「ふくしまSDGs未来博」が、2024年1月20日、21の両日、郡山市の「ビッグパレットふくしま」で開催され、県協会もブースを出展しました。来場された子どもたちに「ユニセフ&SDGsクイズ」に参加をいただいたり、「SDGsルーレット」や日本ユニセフ協会「親子で学べるSDGs(持続可能な開発目標)サイトSDGs CLUB(クラブ)」の動画を視聴いただいたりしました。

また、今回は、県協会が支援する「ルワンダの教育を考える会」理事長の永遠瑠(とわり)マリールイズさんと娘さんのルーシーさん、そしてマリールイズさんがルワンダに造った学校で学んだ画家ウワーヨ・ティエリーさんの絵画を紹介したり、同じブース内で活動いただきました。

「第24回理事会&第13回評議員会」の際に、ご意見をいただきました創立20周年を記念しての「絵画コンクール」については、当協会も構成団体のひとつとなっている「ふく

しまSDGsプロジェクト」で「SDGs未来新聞&SDGsポスター」の募集を行っていることから、「福島県ユニセフ協会賞」を設定していただき、取り組みました。SDGsポスター301点、SDGs未来新聞214点の中から、「ポスターの部」では郡山市立西田学園6年の渡邊千咲さんに、「未来新聞の部」では、福島市立杉妻小学校3年の橋本拓真さんに差し上げることになりました。





(2) 「ふくしまSDGs未来博」が、「福島のよりよい未来を考える」をテーマに、2024年8月10日、11の両日、郡山市の「ビッグパレットふくしま」で開催され、福島県ユニセフ協会もブースを出展しました。訪れた家族連れがものづくり体験などを通して、SDGsへの理解を深めました。

開会式では内堀知事が「私たち一人一人が自分にできることをやってみる。一步踏み出してみる」と呼び掛けました。

会場にはSDGsに取り組む60以上の企業や団体が集まりました。県協会のブースでは、「SDGsルーレット」や日本ユニセフ協会「親子で学べるSDGs(持続可能な開発目標)サイトSDGs CLUB(クラブ)」の動画を視聴いただいたりしました。

また、前回1月に開催された時と同様、県協会が支援する「ルワンダの教育を考える会」が、ルワンダのグッズやコーヒー・紅茶の試飲販売を行いました。

県協会も構成団体のひとつとな



っている「ふくしまSDGsプロジェクト」で「SDGs未来新聞&SDGsポスター」の募集を行っていることから、「福島県ユニセフ協会賞」を設定していただき、取り組みました。

「未来新聞」の部では、郡山女子大学附属高校3年穂刈一葉さん、「ポスター」の部では、あさか開成高校2年の星 柚音さんに差し上げることになりました。



【福島県ユニセフ協会賞】
星柚音さん(あさか開成高校2年)



【福島県ユニセフ協会賞】
穂刈一葉さん(郡山女子大学附属高校3年)

- (2) ユニセフライブラリーの貸し出しは、12月末現在3件となっています。
- (3) パルシステム福島、みやぎ生協・コープふくしまに、ユニセフ活動の啓発として地雷レプリカや水瓶の貸し出しを行いました。
- (4) 出前授業を2カ所で行いました。

①  学校法人みその幼稚園 
みその幼稚園 

2024年2月1日、福島市方木田にある「学校法人みその幼稚園」に出向いて、出前授業を行ってきました。年長さんから年少さんまで園児約88名が、元気に出迎えてくれました。

「ユニセフってなに？」「ユニセフえがおのひみつ」「ちきゅうからのしつもん」、そして「世界手あらいの日」で締めくくりました。こどもたちは、上手に「手洗いのうた」に合わせながら、手洗いダンスを踊ってくれました。



② 「社会福祉法人わたり福祉会さくらみなみ保育園」

2024年2月7日、職員向けの研修として「子どもの権利を守る職員集団としての役割」や「子どもの権利が守られる保育士の関わり」について、日本ユニセフ協会学校事業部の池田礼子さんとWEBでつないでの出前授業でした。

③ その後、出前授業はありませんでしたが、「ふくしまSDGsプロジェクト」で実

施された「SDGs 未来新聞&SDGs ポスター」の募集で「福島県ユニセフ協会賞」をお届けに上がった際、応募に当たって、学校では、日本ユニセフ協会「親子で学べる SDGs(持続可能な開発目標)サイト SDGs CLUB (クラブ)」で学習活動をされていることとお聞きし、「出前授業」も行っていることとお話してきています。

2. ユニセフ協力(募金)活動

(1)「ウクライナ緊急募金」とともに「ガザ人道危機緊急募金」を呼びかけ、取り組んでいます。

各地で続く紛争や多発する自然災害、大規模な難民・移民危機、食料危機など、緊急に支援が必要な深刻な事態を受けて日本ユニセフ協会が呼び掛けた緊急募金に、たくさんのご支援をいただきました。

日本ユニセフ協会の緊急拠出は、紛争が激化した中東のパレスチナ・ガザ地区、ウクライナやその周辺国、トルコ・シリア、アフガニスタンの地震やリビアでの洪水など自然災害の影響を受けた地域、栄養危機を抱えるアフリカの国々、また紛争が続くシリアなど危機下の国々において、子どもたちを守る活動を実施するための緊急支援を支えました。

今、日本ユニセフ協会が呼びかけている「緊急募金」は、「ガザ人道危機緊急募金」「ウクライナ緊急募金」「自然災害緊急募金」(2023年2月6日発災のトルコ・シリア大地震・2023年9月10日発災のリビア洪水・2023年10月7日発災のアフガニスタン地震・2024年9月発災の超大型台風11号)「人道危機緊急募金」「アフリカ栄養危機緊急募金」「シリア緊急募金」「ロヒンギャ難民緊急募金」の計7つの募金活動です。

みなさまからのご協力を深く感謝申し上げます。

(2)書き損じはがきや外国コインなど様々な形での募金に継続して取り組みました。

(3)「ハンド・イン・ハンド2024キャンペーン」に取り組みました。



《2024年のテーマ》子どもたちの健やかな成長を守ろう

子どもがひとりの人間として尊重され、元気に成長していくために必要なさまざまなこと、それが“子どもの権利”です。国際的な人権条約である「子どもの権利条約」は、2024年11月で採択35周年を迎えます。いま世界で起きている、紛争、気候変動、貧困、格差……。子どもたちの権利は守られているのでしょうか？ぜひ考えるきっかけにいただければ幸いです。

《今年は、リアルにハンド・イン・ハンドを実施しました》

- ①12月07日(土)福島市「コープマートいずみ」
- ②11月24日(日)会津若松市「イオンタウンとねがわ」店頭
- ③12月01日(日)いわき市「エブリア」
- ④12月14日(土)郡山市「岩瀬書店富久山店」

開催地	開催日	募金額			参加人数		
		今期	2023年	前年比	今期	2023年	前年比
福島市	12月7日	15,541	32,701	47.5%	9	16	56.2%
会津若松市	11月24日	48,714	30,402	160.2%	10	9	111.1%
いわき市	12月1日	70,357	62,415	112.7%	18	16	112.5%
郡山市	12月14日	10,368	140,376	72.1%	4	6	66.7%
合計		144,980	139,894	103.6%	41	47	87.2%



(4) 東ティモール指定募金第4タームに引き続き取り組みました。

《2024年1月1日～12月31日までの募金総額》

種別	募金額
一般募金	¥10,089,612
ウクライナ緊急募金	¥30,083
ガザ人道緊急募金	¥1,145,304
合計	¥11,264,999

3. 組織強化

- (1) 賛助会員を引き続き増やす呼びかけをしていきます。
 - (2) ボランティアメンバーの養成に取り組みます。
 - (3) 「郡山市との包括連携協定」に基づく取り組みを行います。
 - (4) 県内外の国際機関、国際協力団体等と情報交流を行います。
 - (5) 他県のユニセフ協定組織との交流を進めます。
- (1) 2003年9月25日に、国内13番目の地域組織として約250人でスタートした当協会の賛助会員は、2017年12月末160人、2018年12月末155人、2019年12月末148人、2020年12月末135人、2021年12月末134人、2022年12月末129人、2023年12月末では139人、**2024年12月末では個人141、企業・団体3 合計144人**となっています。
 - (2) ボランティアメンバーへの呼びかけをしていますが、まだ成果に結びついていません。
 - (3) 「郡山市との包括連携協定」に基づき、引き続き「郡山市子ども・子育て会議」に参画しています。

11月2日(土)に「郡山市制施行100周年記念式典」が開催され、事務局の根本喜代江さんが、SDGs活動に貢献された方々4名の一人として、「郡山市制施行100周年記念表彰」を受賞しました。

(4) 県内外の国際機関、国際協力団体等と情報交流を行います。

2月21日に開催された「全国協定地域組織事務局長会議2024」に参加しました。

(5) 神奈川県、兵庫県、佐賀県、北海道、宮城県、岩手県の6道県のユニセフ協定地域組織とは、日常的な交流を進めています。

4. 子どもの権利が守られる地域社会づくりを進めます。

(1) 「子どもの予防的保護(Child Safeguarding)に関する基本方針」に反する事項はありませんでした。引き続き遵守してまいりました。(議案書 24 ページ参照)

(2) 「郡山市子ども条例」「福島市子どものえがお条例」に対し、引き続き注視してきました。

(3) 条例制定の要請を行っている他団体については、把握できず、意見交換を行うことができませんでした。